

# 研究だより

令和2年度

研究推進教務部

～一人の十歩より 十人の一歩～

研究主題

**すすんで関わり合い、学び合う教職員・子ども**

**～主体的・対話的で深い学びを目指して～**

## I 研究の概要

### 1 主題設定の理由

昨年度、教職員全員で「校内研究」の在り方について話し合った。その中で、「自分の身になること」「無理のないこと」「全員で行い、全員で学ぶこと」などが挙げられた。

今までの校内研究が良くなかった訳ではない。一つの教科を全員で行うことで学べることは多々あった。しかし、負担に感じたり、自分の興味関心と合わない学びをしたりすることで主体的になれないことが課題としてあった。

今までの校内研究のやり方を見直し、一つの教科を研究するのではなく、プロジェクト型で研究することで、教師自身が主体的になり、児童の学びにもつながっていくと考えた。

### 2 基本となる考え方

- (1) 先生たち一人一人の主体的な学びを支える。(主体的)
- (2) 先生たちの間に学び合うコミュニティーをつくる。(対話的)
- (3) 先生たち自身が児童にとっての学びのロールモデルになる。(深い学び)

### 3 校内研究のゴールイメージ

- (1) 一人一人の先生が、学びたいことを学べ、校内研究で成長できたという実感をもつ。
- (2) 「教育」や「授業」について、ほかの先生と対話する機会が増える。
- (3) 昨年度よりも、児童の学びが深まったと感じ、学ぶことが楽しくなる。

### 4 研究の進め方

- (1) 多摩川小学校の児童の実態をもとに、自分の研究したい興味・問いを出す。
- (2) 興味・関心をもとに、グループを編成する。(仲良し・学年・年代にならないように)
- (3) 研究を3期に分ける。「調査研究」「実践研究」「改善・振り返り・次年度の課題」
- (4) 研究授業日は、同日、複数チームが行う。(研究協議もそれぞれ行う。)

### 5 児童の実態

各プロジェクトごとに児童の実態調査をする。

**すすんで関わり合い, 学び合う教職員・児童**  
**～主体的・対話的で深い学びを目指して～**

**第三期(1月～3月)**

○教職員同士が関わり合い, 高め合いながら, 実践を成果と課題としてまとめる。

**第二期(10月～12月)**

○「好き」を授業や児童のために生かせるように考える。

英語

**楽しんで英語に  
親しむ教職員・児童**

【児童】  
教職員が日常的に外国語を笑顔で話すことで外国語習得に意欲的な児童を育てる。  
【教職員】  
自分の好きと英語を絡めて学ぶことで, 主体的に外国語を習得する。

遊び

**大人も児童も  
楽しんで運動に  
取り組む**

【児童】  
休み時間に自ら運動しようとする。  
様々な遊ぶ手段を知っていて, 自分たちで遊ぶことができる。  
【教職員】  
教職員同士が楽しみながら体育実技研修を行ったり, 授業を見合ったりしながら始動時技術を高める。

プログラミング

**楽しんで機器を  
使いこなせる  
教職員・児童**

【児童】  
ICT を活用した授業や, プログラミングの授業を受け, 楽しさを感じたり, 力を伸ばしたりしている。  
【教職員】  
ICT 活用スキルや, プログラミング教育への理解を深め, 楽しみながら教師としての力量を上げる。

行事

**多摩小に通っている  
ことを誇りに思える  
教職員・児童**

【児童】  
児童の思いの実現を目指し, 児童が学校生活に充実感満足感を感じる。  
【教職員】  
児童が生き生きと笑顔で学校生活を送る姿を見ることで, 教員として働くことの喜びを感じる

**第一期(6月～9月)**

○自分の「好き」を追究する。  
○「好き」を伝え合い, 調べ, 職員同士のことを知り合う。